

OTハイブリッドリリーの定植前処理 (プレルーティング) 方法



写真1



写真2 各温度で5週間プレルーティングした球根

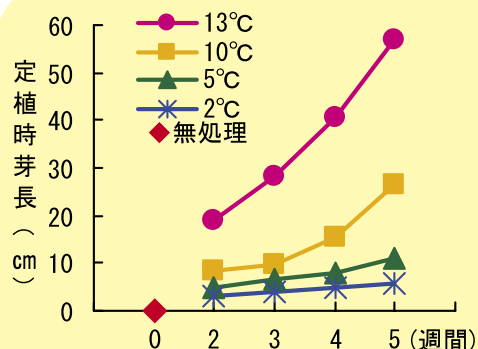


図 'イエローウィン'での定植前処理の温度・期間と定植時芽長との関係

表 'イエローウィン'での定植前処理の温度・期間と切り花品質との関係						
項目	温度 (°C)	期間 (週間)				
		0	2	3	4	5
採花時 草丈	13		127.2 a ^{z)}	125.6 b	134.4 b	129.1 c
	10	130.1	125.6 a	133.8 a	132.0 b	137.2 b
	5		127.0 a	133.8 a	143.7 a	146.6 a
	2		126.8 a	136.8 a	137.7 ab	141.5 ab
	無処理					
花らい数	13		4.8 a	4.5 b	4.7 b	4.5 c
	10	7.4	5.1 a	5.1 a	4.8 b	5.0 bc
	5		5.5 a	5.4 a	6.2 a	5.8 a
	2		5.5 a	5.3 a	5.8 a	5.3 ab
	無処理					

z : 各項目の各処理期間において、異なるアルファベット間にTukey法により5%水準で有意差あり

OTハイブリッドリリーは、黄色いオリエンタルハイブリッドリリーとも言われ、近年栽培面積が急増しています。しかし、オリエンタルハイブリッドリリーと比べて冷凍貯蔵できる期間の短い品種が多く、10～1月に利用できる球根が不足することがあります。そこで、解冻後に低温で定植前処理（プレルーティング）することで冷凍球の定植時期を遅らせることができるか検討しました。また、併せて、このような処理が切り花品質に及ぼす影響を検討しました。

その結果、オリエンタルハイブリッドリリーの慣行に準じて'イエローウィン'（写真1）を13℃で2週間処理すると、芽が20cm程度に伸

長し（図）、花らい数が減少しました（表）。

一方、2℃や5℃の低温では処理期間を4～5週間としても定植時における芽の長さは適度に抑えられ、商品性の高い切り花が得られました。また、'マニサ'や'コンカドール'でも同様の結果が得られました（写真2）。

以上のように、OTハイブリッドリリーでは定植前の処理温度を2℃または5℃とすることで、冷凍球の利用時期は2～3週間延びることが分かりました。

今後は、2℃での定植前処理期間をさらに延長できるか検討する予定です。

（花き担当 二宮 千登志 088-863-4918）